７ 月 教 育 委 員 会 会 議 会 議 録

日時：令和６年７月２５日（木）　　午後２時３０分
場所：光市総合福祉センター　　（公開）

教　育　長	ただいまより令和６年７月の教育委員会会議を開催いたします。 改めまして皆さんこんにちは。山口県教育委員会教育長の繁吉でございます。それでは開会に当たりまして一言御挨拶申し上げます。 本日は、通常、県庁内で開催している教育委員会会議を、県庁の外で、移動教育委員会会議という形で開催いたします。この移動教育委員会会議は、教育委員会の活動を広く知っていただくための取組の一つでありまして、平成１６年度から実施しております。 近年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和２年度以降、開催を見合わせておりました。この度、５年ぶりに開催ができますことを大変嬉しく思います。また、本日は、お忙しい中、多くの関係の皆様にも傍聴にお越しいただいております。誠にありがとうございます。 県教育委員会会議では、その時々で議案等の内容や件数は異なりますが、毎月、教育に関わる様々な議案等について審議を行っています。また本日は、いつもの議案等の審議に加え、様々な教育課題の中から、県政の最重要課題である人口減少の克服に向けた取組として、「地域の担い手の育成」をテーマに取り上げ、教育委員の皆さんと自由に意見交換を行うこととしています。 会場の皆様方には、各地域での今後の取組に当たり、参考にしていただけるところがあれば、幸いでございます。それでは、短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。 本日は、県庁の外での会議ということになりますので、教育委員の皆さんに自己紹介していただきます。小崎委員から順にお願いします。
小　崎　委　員	失礼します。皆さんこんにちは。萩から参りました、 小崎 由紀 と申します。萩の方で地域学校協働活動推進委員をさせていただいております。今日はどうぞよろしくお願いします。
和　泉　委　員	こんにちは。山口市から参りました 和泉 研二 と申します。日ごろは大学で教員養成をやっております。今日は皆さんとこういった場で御一緒できることを楽しみにして参りました。どうぞよろしくお願い致します。
木　阪　委　員	皆さんこんにちは。本日は柳井市から参りました、 木阪 泰之 と申します。よろしくお願いします。私、柳井市ということで、金魚ちょうちんオタクでございまして、商売は小売業をやっておりますけれども、みなさんも御存じの通りいよいよ明後日からパリ五輪が始まりますけれども、山口県の中からもいろいろな選手が出て来られますが、柳井市から河村勇輝さんがバスケットで活躍が期待されています。明後日サンビーム柳井におきまして、パブリックビューイングが行われるんですけれども、夜の８時半からの開催で、２時間前からチケット

	を配ります。すでに全国から、東京の方からもパブリックビューイングに行きたいとのことで、柳井市の職員の方は戦々恐々としているところと聞いておりますので、皆様ぜひとも、大いに、オリンピックはお祭りのようなものなので、共にはしゃぎながら応援してパブリックビューイングも、それを届けられればいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。
藤　田　委　員	皆さんこんにちは。下関市から参りました、 藤田 紫 と申します。日ごろは会社、建設業の代表を務めております。教育委員としては今月でちょうど１年経ちまして、まだまだ自分が勉強しているところでございますけれども、今日はどうぞよろしくお願い致します。
伊　藤　委　員	失礼いたします。周南市の幼保連携型認定こども園で園長をしております、伊藤と申します。本日はどうぞよろしくお願い致します。
教　　育　　長	それでは、さっそく、会議を進行したいと思います。 最初に本日の署名委員の指名を行います。小崎委員、伊藤委員、よろしくお願いします。 それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第１号、議案第２号は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１４条第７項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。
全　　委　　員	承　認
教　　育　　長	それでは、議案第１号、議案第２号については非公開で審議することといたします。
教　　育　　長	それでは、議案の審議に入りたいと思います。 議案第３号について、地域連携教育推進課から説明をお願いします。
地域連携教育推進課長	それでは、議案第３号「山口県社会教育委員の委嘱について」御説明します。資料①の２ページを御覧ください。 社会教育委員は、社会教育法第１７条により、社会教育に関する計画の立案や調査研究等を通して、教育委員会に社会教育に関する助言を行う役割を担っております。この度、委員の任期が満了することに伴い、新委員の委嘱についてお諮りします。３ページの委員名簿（案）を御覧ください。新任８名と再任７名による１５名の改選案でございます。定数につきましては、条例で２０人とするとなっておりますが、平成３０年度から１５名で構成しております。これは、本県の行財政構造改革を踏まえ、役割の重複等を考慮し、推薦団体の見直しを行ったことによるものです。今回の改選におきましても、各社会教育関係団体の代表をはじめ、大学や企業の関係者、公募委員など、幅広い分野と年代による構成となっておりますので、本県の社会教育行政

	に対して、これまでと同様に多角的な視点から御意見をいただけるものと考えております。 　続いて、委員の候補者についてです。今回新たに委嘱する方は、団体推薦となる中学校長会の 吉松 良子 氏、高等学校長協会の 庄田 敦紀 氏、私立幼稚園協会の 御手洗 賢成 氏、ＰＴＡ連合会の 松田 龍信 氏、公立高等学校ＰＴＡ連合会の 田中 幸夫 氏、老人クラブ連合会の 惠本 元 氏、公民館連合会の 河本 英治 氏、公募委員の 前田 亜樹 氏の８名です。また、指名により委嘱する学識経験者につきましては、中馬 好行氏、田中 理絵 氏、田原 文栄 氏に引き続き委員をお願いしたいと考えております。公募委員につきましては今回１５名の応募があり、選考委員会による選考の結果、前田 亜樹 氏に委嘱したいと考えております。前田氏は、ＮＰＯ法人「Kananowa」の理事長として、子どもの居場所づくりや学習支援に精力的に取り組んでおられる方で、社会教育を通したこれからの学校・家庭・地域の連携・協働の在り方について、建設的な御意見がいただけるものと期待しているところです。説明は以上です。御審議のほどよろしくお願いいたします。
教　育　長	ただいま地域連携教育推進課から議案第３号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
小 崎 委 員	質問なんですけれども、毎年この公募というのは、応募してこられた方の中から１名だけなのですか。２名、３名ということはないのでしょうか。
地域連携教育推進課長	この公募につきましては、任期は２年になっておりますので、２年に一度改選を行っております。公募委員については、毎回１名という形で募集をさせていただいております。以上です。
小 崎 委 員	はい。ありがとうございます。個人的な感想なんですけれども、今から学校現場もそうですし、地域と学校がより一層密着していかないといけなくなってくると思うので、一般の方が委員にもう少し入っていただくと、また少し違った形になってくるのかなと思いますし、そういった地域の情報とかそういうのを取り入れていただくようになればいいなと思っています。
地域連携教育推進課長	はい、ありがとうございます。公募委員につきましては今のところ１名となっておりますが、今後そういった御意見を踏まえながら、幅広い分野、いろいろな方に参加していただきながら、社会教育行政に関して御意見をいただいて、それを我々の施策、取組に活かしていきたいと考えております。どうもありがとうございました。
教　育　長	議案第３号について、承認することとしてよろしいですか。
全　委　員	承　認
教　育　長	議案第３号を承認いたします。 　それでは報告事項１について、教職員課から説明をお願いします。

教職員課長	資料①の６ページを御覧ください。７月１日に実施要項を発表しました「令和７年度（2025年度）山口県立学校職員（実習助手・寄宿舎指導員）採用候補者選考試験」について御報告いたします。７ページ以降に実施要項を掲載しておりますが、ここでは概要を示した６ページで説明させていただきます。 まず、１の表を御覧ください。左の職種にお示ししておりますとおり、この度募集する職種は、実習助手と寄宿舎指導員としております。右端の職務の概要欄にありますように、実習助手は県立高等学校等において理科・家庭科・工業等の授業での実験や実習等を行う際に、教諭の職務を助けること、寄宿舎指導員は、特別支援学校の寄宿舎において、児童生徒の日常生活上の世話、食事や入浴等生活全般に関わる生活指導を主な職務としています。左から２番目の選考区分の欄を御覧ください。実習助手については、一般選考と障害者を対象とした選考を実施します。それぞれ、普通教科と、工業においては機械系、電気系、土木建築系の３区分を志願区分としています。寄宿舎指導員については、選考区分、志願区分ともにございません。 続いて右の採用見込者数の欄を御覧ください。実習助手については一般選考では普通教科、工業の機械系、電気系、土木建築系でそれぞれ１人程度、障害者を対象とした選考では１人程度の計５人程度としています。寄宿舎指導員については１人程度を見込んでいます。 次に「２　受験資格」についてですが、昭和４０年４月２日から平成１９年４月１日までに生まれた者としており、これは年齢が令和７年４月１日時点で、１８歳から５９歳の方を対象としています。実施要項にはお示ししていますが、実習助手の工業については、高等学校、短期大学、専修・各種学校等において工業に関する学科を修めて卒業・修了していること、または卒業・修了見込であることが資格要件として必要になります。高校３年生も受験が可能となっておりますことから、高校生の進路選択の一つとしていただけるよう実施要項の発表を昨年度より２０日ほど早め７月１日に行ったところです。 次に「３　志願書類等の受付期間」についてです。出願方法については、教育委員会教職員課ウェブページからのインターネット電子申請のみとしており、受付期間を８月２６日から９月１３日としております。 次に「４　試験の期日・場所」についてです。１０月２７日に山口県セミナーパークで実施いたします。日程については、実施要項にお示ししております。 次に「５　試験の内容」を御覧ください。試験の内容は、実習助手の普通教科と寄宿舎指導員については、教養試験・小論文・面接・適性検査を行い、実習助手の工業３区分については、教養試験・専門教科試験・面接・適性検査を行います。 最後に「６　採用候補者名簿登載予定者の発表等」についてです。実施した試験結果等をもとに、出願時の提出書類等を総合的に判断しながら、人物を重視した選考を行い、１１月２９日に採用候補者名簿登載予定者を教育委員会教職員課のウェブページで発表することとしています。以上、御報告させていただきます。

教　育　長	ただいま教職員課から報告事項１について説明がありましたが、意見、質問はありますか。 それでは、報告事項１については、以上のとおりとします。 それでは、意見交換に移ります。本日の意見交換テーマ「『地域の担い手』の育成について」地域連携教育推進課から説明をお願いします。
地域連携教育推進課長	それでは意見交換に先立って、私からテーマについて御説明いたします。今回の意見交換テーマは「『地域の担い手』の育成について」です。本県の喫緊の課題である人口減少は、県の課題だけでなく、教育現場での課題でもあると考えております。４月に行われた会議においても、県内各市町の教育長、教育委員の皆様と情報交換を行ったところです。その際、本課からも地域連携教育再加速化事業における「子どもが地域の先生プロジェクト」の取組等について紹介し、地域と学校、子どもたちのつながりの重要性、大人の学びと子どもの学びの好循環の創出についてなど、多くの御意見をいただきました。その中で、例えば、地域の方と行う体力測定、子どもたちが主体的に関わる自治会活動、子どもが大人へ教えるスマホ教室、ＡＬＴを活用した英会話教室など、学校と地域が連携協力した様々な取組も共有することができました。 言うまでもなく、本県教育の強みは全ての公立学校がコミュニティ・スクールになっているところであり、コミュニティ・スクールを核とした地域づくりが、本県の課題解決に向けた大きな道筋であると考えます。 この後の意見交換では、先月の光市立浅江中学校への視察等も踏まえて、子どもたち一人ひとりが持続可能な地域の担い手として、新たな価値を生み出していける人材の育成に向けて、これからの教育現場に必要なこと、求められることなどについて自由に意見交換をしていただけたらと思います。
教　育　長	ただいま、地域連携教育推進課から、取組状況について説明がありました。光市立浅江中学校に視察に行かれた感想などを含めて、御自由に御意見・御質問をいただきたいと思います。 小崎委員いかがでしょうか。
小　崎　委　員	はい、失礼いたします。先ほど申しましたように、私も萩の方で地域学校協働活動推進委員をさせていただいております。萩の方で学校の先生方や地域の学校運営協議会の委員の方、また保護者の方、ＯＢの方と日々いろいろな話をしながら迷うこともあり、でも楽しく活動させていただいています。やはり活動させていただく中で、他の学校さんはどんな取組をしているんだろう、今どういうことをされているんだろうっていうのは常に気になると言いますか、知りたいなという思いがありまして、先ほども言われてましたけど、先日浅江中学校の方に視察に行かせていただきました。実は５、６年前に私は一度浅江中学校のほうに、視察とまでは行かないですが、訪問という形で行かせていただいたんですけれども、そのときも、浅江中学校は既に英語

	の授業に地域の方が入っていらっしゃったんですね。子どもと一緒に、地域の方が英語を学ばれている姿に衝撃を受けまして、地域の方がここまで学校に入って来られているんだ、というのをすごく感動したのを覚えています。この度また視察に行かせていただいて、今回は社会の授業に地域の方が入っていらっしゃる、グループに分かれてその中に地域の方も入って、子どもたちと一緒に学ばれている、それが普通で当たり前のような光景で、そういう取組が途切れることなくずっと続いてきているんだなということもすごく感じさせていただきました。またそのときに、「あさなえカフェ」というのを見学させていただきまして、これはできて２年くらいと言われてました。そこに地域の方がいらっしゃって、たまたまそのときは金曜日だったので、金曜日のお昼は子どもたちがそこに自由に来ていい日とお聞きして、私たちがいるときにも生徒さんたちが何人か、その地域の方とお話をするためにその部屋に来られていて、本当に親しく地域の方に抱きつかんばかりの勢いで話をされているのが本当とても微笑ましくて、やはり生徒さんたちにとっても地域の方が学校にいらっしゃるっていうのが普通の、日常のことになっているんだなっていうのを感じました。 　今日の課題でもあります地域の担い手の育成ですけれども、小学生中学生よりもっと前、幼いころから地域の中に溶け込むような、そういう仕組みを私たち大人が作っていかないといけないかな、というのを感じています。そういった中で子どもたちが学校に来られる地域の方もそうですけど、子どもたちが今度は地域に出て行って、そういう方たちと触れ合う、あるいは自分のふるさとのことを知る機会を得る、そういう場づくりをもっともっと私たち大人も真剣にしていきたいですし、もちろん子どもは主役ですけれども、大人も一緒に楽しめるような、「地域を盛りあげるってこんなに楽しいんだよ」とか、「私の生まれたこのふるさとっていいよね」というのを共有できるような、そういう活動を私自身もしていきたいなっていうのを、今回感じました。以上です。
教　育　長	ありがとうございました。それでは続いて和泉委員いかがでしょうか。
和泉委員	はい。今の小崎委員の言われたことに尽きるんですけれども、私も浅江中学校の方を拝見させていただいて、本当に子どもたちが全然物怖じすることなく、私たちが会議をしているところにとことこっと入って来てですね、ちょっと悩みごとの相談をその地域の方にしていたりして、そういった空気感が学校の中に生まれているということに非常に感動いたしました。光市の伊藤教育長さんを先頭に、これまで培ってきた文化として、中学校に築づいているんだなというのを実感した次第です。やはり地域の担い手の育成ということで、将来的に地域にどう貢献するような人材を育成するかということなんでしょうけれども、やはり基本は幼少の頃に地域の人にいかにお世話になったかという、郷土愛とまではいかないかもしれませんけれども、そういった思い出が将来大人になって地域に貢献したいなということのベースになるのではないかなと思っています。山口県の場合は人づくりと地域づくりの好循環の創出ということで、社会総がかりで教育づくりの地位の取組を推進しているということでコミスクがあるわけですが、本

	当にゼロから出発してコミスク先進県を築いていった山口県の取組というのは、委員としても素晴らしい、これからも発展させていただきたいなと思っております。小中学校では中学校を校区としてコミスクがだいたいつくられているわけですが、更に高校の方ではやまぐち型地域連携教育からやまぐち型社会連携教育へと発展していって、地域だけに限定せずに、広く専門を生かした広がりをもって、将来を見据えた活動も高校生たちがやるということで、非常に本当に地域に残ってくれる人材が育成できる、そういった素地がだんだん醸成されているのではないかと期待しているところです。 　大学の方も、今度の令和７年度入試がもうすぐ始まりますが、ひと・まち未来共創学環という、学部とは違うんですけれども、いろいろな学部の先生が集まって学環というのを作ります。これは人や地域のウェルビーイングに貢献する文系ＤＸ人材育成という、心理とかＤＸとか或いは経済系の先生とかが入って、これからの地域を創成していくような人材を育成するということで、定員４０名の入試があります。一般入試と推薦と、いくつか分かれているのですが、そういった学部の枠を越えて、必要なこれからの地域を担っていくような人材の育成ということでも、大学の方でも始まったところでございます。大学の場合は山口県に限らず、どこに住んでいてもいいと思うんですけれども、山口県の自然とか特産物とか、地域の人たちは当たり前のこととして、すごいものと思っていないようなことでも、そういったものをいかに価値づけして、全国展開していくとか、そういったときにはどこに住んでいてもたぶんいいと思うんですが、地域のそういった魅力を掘り起こして展開していくような、そういった力量を持った人材が大学の方で輩出できればいいのかなと思っているところです。 　山口県の方でもコミスク地域協育ネットを支える人材育成、地域協育ネットコーディネーター養成講座とかですか、そういったものも盛んに行なわれているようですし、今後ますますそういった方々が活躍されて、本当に地域の担い手の育成が県民総がかりでできるようなことが、今後ますます発展していっていただきたいなと思っています。以上です。
教　育　長	ありがとうございました。一回り、委員の皆さんからお聴きしたいと思います。それでは、木阪委員お願いします。
木阪委員	はい。先日浅江中学校の方にお邪魔させていただきました、ありがとうございました。前の二人の委員から浅江中の事は話がありましたので、またちょっと別のことで最近思うところをお話させていただきたいと思っております。リバースメンタリングというお言葉を聞いたことがあるかわかりませんが、これを私らの方は自営業ではあるんですけれども、小さなお店ですけども職場体験でちょっと実施してみようかなということで、その時のことを少しお話をしようと思います。リバースメンタリングというのは例えば企業でってことですね。新入社員さんが普通は上司から新入社員の方に「こういうものだ」とかというのを教えるんですが、全く逆ですね、デジタルネイティブの若い社員さんが逆に上司の方にガンガン教えるという、１対１ではなく複数対複数でされるんだそうです。それでこう社内のウェルビーイング

	を邪魔するものは殆ど除いていくということで、一緒にやるとか若い方の能力を感じるとか、逆に若手を守るといういろいろなメリットがあって、お互いフィードバックができるということがあるんだそうです。私共の会社はそこまで大きくないのですが、職場体験で二人の中学生の女の子を引き受けました。一人は小売り業が大好きですとか、もう一人は建築士になりたいというのを事前にもらった履歴書に書かれていましたし、事前にお店に来て面談をした様子、そこで彼女達の見た感じやお話の仕方を見た結果、多分相性がいいなと思いましたので、リバースメンタリングではないですけどそれを職場体験で取り入れてみました。従来の職場体験でいうと、来てもらって働くことはこういうことなんだとか、働くことの尊さをお話したりとか、昔であればそこをこうするんだというのをやってましたし、どうしても限られた時間の中で時間を持て余すというか、結局彼女のためになってなかったことがあったと思うんですが、私も教育委員をさせていただいて学校等の現場とかに行って、ＩＣＴを使える生徒さん達を見る中で、これはホントに時代がどんどん変わっていってると感じました。 　今回その二人にお願いしたのが、金魚ちょうちんのぬいぐるみを新しく作ろうと思うのだが、この新商品を上手く発信することを考えてみてほしいという課題を与えてみました。もちろん掃除等その辺のことはしてもらいましたけども、それ以外の事はほとんどそれに集中してくださいと、タブレットを持ってきてくださいと伝えました。ただタブレットはFree-Wi-Fiは無いのでつながりませんので、タブレット内にあるアプリをちゃんと上手く利用してもらって、２日間、９時から３時までの職場体験の時間で考えてもらいました。しかし結局その時間では足りなくて、彼女達は放っておいてもどんどん自分たちでその商品のイラストを描いたり、ストーリーを考えて、それをこうつなげて動画にしていくわけです。それを見てると今いろいろなところが山口県さんもそうですし、市町の学校、教育現場の方で地道に取り組んでいる、そういった担い手を作るという環境の中で生徒さん達が着々とそうやって力を付けて活躍できる、そういった力を蓄えてるなというのは感じています。 　何が言いたいかというと、今後、人口が減っていくのは確実で劇的に増えることもまず無いわけですから、そういった方々をいかに留めるにはどうしたらいいかということの中で、山口県から一旦出るのは良いと思うし、いろいろな都会の風を感じて山口に帰ってくることは全然いいと思いますけれど、我々大人がですね、先ほどもいろいろな地域の事とか地域教育とか、地域に詳しくなってもらうということはもうほんとに凄くやってるんですけれど、我々大人の方が私も含めてですが、生徒さん達にとにかく綺麗ごとでは無く「山口がピンチなんだ、帰って来てくれ。一回出てもいいから帰ってきて一緒にやろうじゃないか。」というのを言葉で発しているかどうかいうと、私はあんまり発してなかったなと思ってるんですね。なので今後そういった生徒さん達とかに接する機会があれば、そういったメッセージをあんまりストレートに投げかけてはいけないのかもしれないですけれども、緩やかな牽制球だったとしても、そういうのを投げかけていく中でまた若い頃からそういう事を言われていてじゃあいつか山口へという方が今までよりは増えるような、増えてほしいなと思ったりしていま

	す。あとは事業承継の方にもつながるんですけども、帰ってきた時に商売屋をやってるとですね、どうしてもその親とすれば「こんな商売もう将来がないからもういいよ、そのうち都会の方でやってくれ」というのももちろんあるかもしれませんが、それでもこれからどんどん仕事があるけども後継者がいないから廃業せざるを得ないっていうのがこれから山のように出てくるはずです。その時にUターンをする時に、各市町ではあるかもしれませんけども助成金とか補助金とかをですね、昨日事業承継のある県の相談会に行った時に、今までとは違う新たな取組をするのであれば出るけども、本業のバトンタッチだけでは出ないとかいうのがありましたけど、これは金額ではなくて何か少し肩を押してもらう意味でもですね、普通にこう帰ってくる、本業を継ぐために、〇〇屋を継ぐために帰ってくるっていう方々にも何かそういう風なものがあれば、またいろいろな「帰ってこいよ」というトークにも使えるような気がします。ですから今までの土壌がどんどん出来ている中で、何かブレイクするようなそういったものが何なのかというのは意外と足元にあったりとか、意外に簡単なことなのかもしれませんけれども、そういったことを愚直に続けていくことが本当に時間かかるかもしれませんが、担い手の育成というか、そういったものにつながるような気もしております。
教　育　長	ありがとうございます。続いて藤田委員お願いします。
藤　田　委　員	私は先日の視察の方には伺ってないのと、普段は教育に全く関わらない環境にありますので、恥ずかしながら学校運営協議会やコミスクを教育委員になって初めて知ったので、これまで何度か視察に伺って、新鮮な経験をさせていただいて、自分が子どもに戻ったような気分になっています。皾さんのように高度な見識を持ってないので、とりとめのない感想になるかもしれません。 山口県内の公立の学校全てに運営協議会が設置されているということで、上手く行っているところは取り上げて私たちの目にもつきやすいんですけれど、もし上手く行っていないところがあるようだったらそういったところの学校の抽出をして、外部の人からアドバイスができる機会、チャンスとかがあるのかなと疑問に思いました。また地域の担い手と言われて、いまいちピンとこないのが、子どもたちが育って大人になって地元に戻ってきて、地元で就職したり、起業して地元を盛り上げてほしいということだと思うんですけれども、そういうことはそもそも地元に愛情がないと戻ってこないと思うし、そうしたことは子どものとき、幼稚園ぐらいからの教育が大事だと思うんですよね。親が休みの日にいろいろな体験をさせてあげるとか。私が子どもの頃はまだ保護者も余裕がある時代だったと思います。でも今、私も会社を経営していて、仕事をしている人を見ると人手不足でいっぱいいっぱいで、親御さんも多分余裕がない、そしたら子どもたちと思いっきり休みの日を外に出て満喫できなかったり、コロナもありましたしそういった状況の中で子どもたちに良い体験をさせてあげる機会が少なくなってるんじゃないかと思います。御存知の方もいらっしゃると思いますけど、下関には寺小屋というセカンドスクールみたいなのをやってるところがあって、私も少しだけですけど関わったりお話を

	聞いたりしています。そういったところが休みの日にいろいろな体験をさせに大人が引率して連れて行ったりとかして自分の親がいなくても誰かの親がついていって子どもたちにいろいろな経験をさせてあげているというのを活動してたりとかするそうです。学校運営協議会というと学校の中だけというイメージが私の中ではまだあって、そういったことに学校運営協議会がもっと外に広がってほしいのと、私のようにそういうものがあるというのを知らない人もいると思うので知ってもらうことってどんな事業とかでも一番大事なことなんじゃないかなと思うので、そういった情報発信を上手くやってほしいなと思っています。 　今少子化でこれから地域の担い手や働き手が少なくなってくるという危機感を県民一人ひとりが持ち、そして今不登校とか学校に行けていない子が非常に多くなっていると思いますが、そういった子のサポートを学校の先生だけではもう賄いきれない時代になってきてますので、もうやっているところもあるとは思うんですけど、もっと大々的に不登校のサポートを地域の方の力を借りて子どもたちが外に出てこれるように、もちろん時代が変わっていろいろなことがオンラインで済む時代にはなってきてますけど、人間性を育むのは、人間は人間によって育てられると思っていますので、人とふれあうことを恐れない人材を育てるためにも大人の力がもっともっと必要だと思います。そしてこれから人生１００年と言われており、仕事を引退した人が６５歳で仕事を引退したとしてもあと３０年以上人生は待ってます。そういった人たちがまだ頑張ろうと思ってもらえるような環境づくりにもなるので、こういった活動、地域の担い手の育成というだけではなくどの世代の方も学べるような組織づくりが、これから山口県がどこの都道府県よりも抜きん出てできていけたらいいなと思います。
教　育　長	ありがとうございました。最後に伊藤委員お願いします。
伊藤委員	失礼します。小崎委員とちょっと重複することもあるかと思いますけども、先月６月２６日浅江中学校を訪問させていただいた日は、日中ではありましたけどどんより曇っておりました。しかしながら校内に入り、まず「あさなえカフェ」に案内され地域住民の方と他愛もない雑談を子どもたちがして、楽しそうにまた教室に戻っていく学生の姿がありました。午後、教室では地域住民の方とともに意見を出し合って真剣に授業に向かい合っている学生の凛とした姿がとても印象的で、また応接室では生徒会でＣＳ委員の学生の方々の白熱したプレゼン発表、どの学生の目の輝きも本当に明るい未来を照らしてくれているように思いました。 　私は下松市に在住しておりますので光市は結構近くに感じております。そして、俯瞰的に見ましても光市の官民は一体となっておりましてとても柔軟でいち早くどこよりも先駆け、皆さんも御存知ですけれども光市おっぱい都市基本構想を実施されていました。おっぱいを通した母と子のふれあいは真に生きる力を持つ心豊かでたくましい若者が育つそしてこの若者たちが母として父としてこの町に住み、町と共に輝いていくという営み、そしてこの何十年も引き継がれた市民のつながりを、浅江中学校の歴代の校長先生のマネジメントがあり、現在

	の浅江中学校が存在していると思いました。ただ、山口県全体での地域連携教育は推進されていますけれども、学校・家庭・地域住民が連携協働し条件が整えばこのような結果が出せるかもしれませんけども、お子様から手が離れた方には情報発信はもうされていると思いますけれども、まだまだ知らない方がたくさんいらっしゃると思われますのでこれが今後の課題だと思います。 　付け加えさせていただきたいのですが、下松市に久保地域という場所があるのですが、７、８年前から急に久保地域が活性化してきたなということを感じています。私もこの教育委員に就任しましてまだ浅いものですから正直お恥ずかしいお話なんですけど、コミスクということを言葉では知っていても、内容は存じ上げませんでした。しかしながら、久保地域が変わってきたなと感じておりました。人にはその人の役割があると申しますけども、元浅江中学校の先生が下松市の久保中学校に赴任をされてきていたそうです。下松市の久保という地域は山間部にありまして人口減少し小中学校のクラスも激減しております。お年寄りも多く祭り等も昔は盛んにされていたんですけれども、本当に活気がないものとなっていました。しかし、この校長先生が見事に先ず、小中学校の連携を図られて、「たくましい久保っ子」をスローガンに学校を拠点に地域住民、家庭を巻き込まれて地域がつながっていったそうです。その結果「たくぼ」という総称で久保地域でそうめん大会等の開催やお祭りも活性化したようです。また子どもの居場所づくりも、地域住民の積極的な活動から子どもを持つお母さんから「久保地域は安心して暮らす事ができるようになった」ということを聞き及んでいます。校長先生は浅江中学校でこの経験を活かし、自分の役割を全うされたんだと思われます。やはり校長先生がこうして山口県内に広く情報発信をされ、一校でも多くの学校が変革することで子どもたち・学生が地域・故郷への愛着が持てるようになり、将来への定住につながっていくのではないかと思います。
教　育　長	はいありがとうございました。一通り委員の皆さんから感想や御意見を伺いましたけども、ここからは皆さんの御意見等を踏まえ、御自由に発言をしていただきたいと思いますが、どなたか意見等ある方はいらっしゃいますでしょうか。 　先ほど、藤田委員の方からコミュニティ・スクールが上手くいっていないところには外部からアドバイスとかがあったらいいんじゃないかとか、学校運営協議会は学校だけじゃなくて外につながっていってほしいというお話もあったと思いますけれども、たしかに上手くいっているところも校長が代わったらそこで終わりになったりしたところもありまして、コミスクは持続可能なものといいますか、校長が代わっても次までつなげていくような形にしていかないといけないと思っているんですけれども、実際に運営に携わった経験のある小崎委員、学校運営協議会やコミスクがどうしたらつながっていくと考えていらっしゃるのか、何か意見があればお願いしたいなと思います。
小　崎　委　員	はい、少しお話がずれるかもしれないですが、先ほど言い忘れたんですが、「あさなえカフェ」で何を驚いたかというと、そこに先生が

	来られるんですね。そこにいらっしゃる地域の方にこういう行事があるんだけどどうしましょうか、そういう行事の相談をされていて、地域の方に聞くと先生もよく来られますよと言われて、先生ともやっぱり地域の方とつながってるんだなととても驚きました。昨今の学校運営協議会の方にも子どもを交えて学校運営協議会の委員さんと熟議というのを、割とどこの学校もされ始めたのかなと思うんですけど、もちろん子どもとの熟議も大事なんですけれども、先生との熟議、学校の教師と学校運営協議会の委員の接点をもっと作るべきだなというのを私が携わらせてもらってる学校運営協議会では思います。昨日、萩の小学校の学校運営協議会があったのですが、それは年に１回全教員がその学校運営協議会に参加するというもので、昨日がその日でした。先生と地域の人たちがグループに分かれて子どもたちの様子であったり、子どもたちの課題であったりそういうのを話されるんですけれども、その光景がとても良くて、やはり顔を突き合わせてそういう話をしないと学校運営協議会自体も良い方向に向かっていかないんじゃないかなと思っています。学校運営協議会は地域の人だけのものではないので。先生との接点の場がある、そういう風潮が学校でずっと続いていけば、その協議会自体ももっと活性化してくるのかなと思っています。先生が来られる協議会もあるんですが、決まった先生しか来ないんですね。だから年度の終わりに「あ、こんな先生いたんだ」って思うこともありますし、学校運営協議会委員が先生を知らないということは残念なことなので、そういうところも取り組んでというか声を出していきたいなというところです。
教　育　長	はい、ありがとうございました。確かに学校運営協議会が上手くいっているところはいろいろな先生方が地域とつながっているところがあるんじゃないかと思っていますし、上手くいっていないところは学校の校長の年度の当初方針の説明で実績の報告、それに終わっているところもあるんじゃないか、管理職だけで留まっているんじゃないかというところもあったりすると思いますので、その辺りはこれからしっかりと学校・地域が上手くつながるような取組を進めていければいいなと思っております。それから当然、学校運営協議会、地域とのつながりも必要なんですけれども、高校で言いますと地元の企業とか大学とかとのつながりも必要になってくるんじゃないかと思っております。皆さんの身の周りの中で、企業なり大学なりで何か小中学校、高校とつながる取組ができそうなものがないだろうかと思っているのですが、例えば先ほど木阪委員が柳井市の観光連盟の関係もありましたし金魚ちょうちんの話もいただきましたけれども、柳井市の観光事業などで学校の生徒さんとかとつながるような取組など何かあれば教えてもらえたらと思いますがいかがでしょうか。
木　阪　委　員	まだ取組としては小さいのですが、この教育委員をやっていて、部活動の地域移行化というのが何年か前から今でも継続していますけれども、体育会系のものはいずれ落ち着くであろうと、ただ文化部系はなかなか受け皿というのがないだろうなという中で、例えば観光協会とかは美術部系はとても相性が良いはずだと思っています。例えばその市町の観光協会の中に中学生部会とか高校生部会とかですね、そう

	いったものをつくりたいなと思って、今では柳井商工高等学校さんに高校生部会というのをやってもらっています。理想は中学生部会から入って、できれば小、中といければいいんですけれども、ただ授業の一貫の中でやるとどうしても今の柳井商工さんの場合は、週一の授業の中で高校生部会の活動を３年生が卒業するまで、秋口ぐらいまでは活動してもらうんですが、本当は３年間通じてまた部室みたいなものになって、そこでやっていくのが、先ほどの地域の課題を真剣に考えて行動をしてそこからまた何かが生まれてくるような気もします。それが小学生部会であって、観光協会の小学生部会、中学生部会、高校生部会という三本柱が整うと、学校だけではなく地域だけではなくて生涯に携わってらっしゃる観光プランの会員の方々との関係も上手く保ちながら、そういったことができるんじゃないかっていうことで、そうだったらいいなと少しずつですが日々動いております。
教　育　長	ありがとうございます。大変面白い取組と言いますか小学生部会、中学生部会、高校生部会できればいいなと思っております。観光はいろいろな産業にも関わって幅広い分野で取組ができると思いますし、小学生、中学生、高校生それぞれにとってその段階で一緒に連携できるところがあると思いますので、ぜひとも進めていってもらいたいなと思います。 それから今度は大学の方の関係で言いますと、令和７年度の入試からひと・まち未来共創学環を創設するということで、文系ＤＸ人材を育成するというようなお話もされていましたが、この辺りをいかに地元に残していくかということで、どのような文系ＤＸ人材の育成を考えていらっしゃるのか、その辺りの事についてお話がいただければいいなと思いますが、和泉委員どうでしょうか。
和　泉　委　員	私、直接は関わっていないのでなかなか難しいと思うんですが、地域で課題を解決しようと思っても課題意識があってもなかなか解決できない、まずはこの地域に学生が入り込んで課題を把握する、フィールドワークを大切にしようということがあります。地域の課題を把握した上で、また心理・行動科学を学んだ上で、地域の方と連携しながら共通の目標で活躍できるような人材ということで、心理系のことも学ぶということです。ＤＸ関係を駆使して、効率よく「こんなソフトが欲しいんだけど」というようなきめ細かなニーズにあわせて地域の課題を解決していこうと、そういった人材育成だと聞いています。 既に県立大学と山口学芸大学と連携してＳＰＡＲＣという事業が立ち上がっていまして、それも地域の課題ということで地域連携の法人をつくって進めていくということで、大学の方もこれからの地域課題を解決できる人材の育成ということで、これから卒業生が活躍してもらうようになればいいなと思います。
教　育　長	ありがとうございました。確かに最近コマーシャルで県立大学が文系ＤＸ人材の育成とか入れていたりしてますけれども、山口県は山大と学芸大と県立大と国立、県立、私立、この三つの大学が連携するのは全国でも初めてだと聞いています。

和　泉　委　員	そうですね。これからいろいろな課題を解決していかないといけないのですけれども、象徴的なとこから言うと授業時間を合わせました。始まりの時間と終わりの時間、お互いの授業のいいところをやりとりできる、そんなことから始めています。
教　　育　　長	ありがとうございます。そういった意味合いでは、山口県の場合は小中のコミスクが始まって高校のコミスクができました。次は大学の方でＳＰＡＲＣという、こちらも地域連携の取組が進んでくるということで全国でもトップランナーだと言われてますけれども、このトップランナーの取組を更に進めていければいいなと思っていますし、小、中、高、大学まで地元で子どもたちが学び育っていって、今度は働いてもらうようなそういう流れができたらいいなと思っております。 時間がそろそろなくなってきたんですけれども、その他何か御意見等あったらお願いしたいと思います。 それでは最後に一言申し上げます。委員の皆さんたくさんの御意見をいただきましてありがとうございます。それでは、そろそろお時間が参りましたので、話は尽きませんが、ここで意見交換を終了したいと思います。 本県では、御存じのとおり、全国に先駆けて令和２年度にすべての公立学校にコミュニティ・スクールを導入しております。小中学校においては、子どもも大人も学び合う活動を促進しており、今回浅江中学校で見られた取組等を広く県内に普及させていきたいと考えています。また、県立学校においても、生徒一人ひとりの自己実現と社会参画をめざした活動を推進していかなければならないと思っています。今後とも、各学校における、コミュニティ・スクールを核とした多様な他者との協働を通じた連携体制の構築・強化に努めますとともに、地域の担い手の育成にも取り組んでいきたいと思いますので、引き続き御協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、以上で本日の意見交換を終わります。 次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	次回の教育委員会会議は、令和６年８月２７日（火）午後２時を予定しております。よろしくお願いします。
教　　育　　長	以上をもちまして、公開案件の審議を終了します。非公開案件については、後ほど、第２会議室において行いますので、よろしくお願いいたします。